

衛門戸丸山古墳

丸塚古墳とも呼ばれる直径約 45mの円墳である。瓢箪山古墳の南西隅に接するように位置する。砂利採取工事による掘削時に、墳頂下約 1.2mの粘土礫に達して銅鏡 14 面・琴柱形石製品3点・銅鏃 19 点・鉄刀剣 18 点が出土した。

副葬品の内容や瓢箪山古墳に先行して築造された点からみて、4世紀末葉の築造と推定できる。



瓢箪山古墳（中央）・衛門戸丸山古墳（左下）

ヒシアゲ古墳

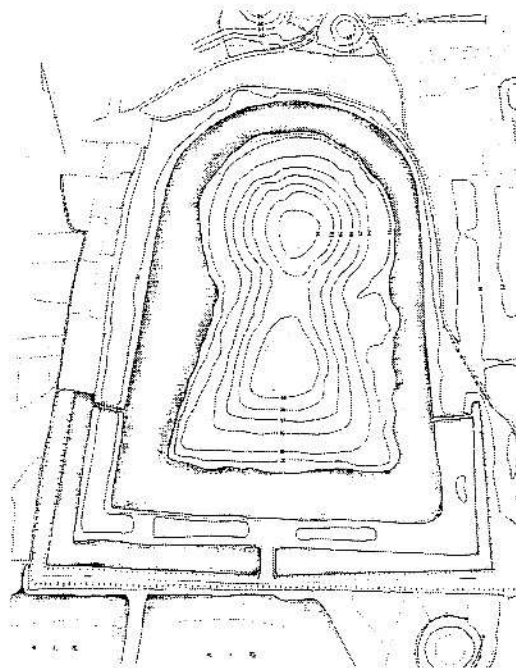
全長 220m・後円部直径 120m・前方部幅 150mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。前方部東側のくびれ部寄りに造り出しを有し、墳丘には葺石と埴輪の存在が認められる。墳丘は著しい改変を受けているようで、段築の存在も明瞭でないが、おそらく3段築成と想定できる。墳丘の周囲には、2重の盾形周濠と堤がめぐり、さらにその外側北方向に陪塚4基が配置されている。

内堤の上面幅は 13m余りで、2重の円筒埴輪列がめぐる。内外両側の埴輪列は、共に上面端から 1.5m前後の位置に埴輪が密に並べられていたらしく、埴輪列間の距離は 10.2mである。上面で礫敷、外斜面で葺石が確認されている。

外濠は、後円部北側で幅 7～12m・深さ 1.5m、後円部東側で幅約 16m・深さ約 1.5m、前方部南側で幅 20m前後である。北から南へ延びる丘陵を切断して古墳を築造しているため、切断面に近い北側の外濠では、幅が大きく狭まっている。また、後円部東側で外濠が途切れる箇所があり、渡り土手を取り付く。

外堤は、前方部南側で上面幅 11m前後あり、埴輪の出土からみて埴輪列が存在した可能性が高い。

出土埴輪はⅣ期後半の様相を示し、築造時期は5世紀後葉と推定できる。



ヒシアゲ古墳